
PRESS RELEASE

CGM マーケティング、Tweetmanager のセキュリティを強化 より安全・安心な Twitter アカウントの運用に向け新機能を追加 ～ネット選挙解禁に向けアカウントの不正アクセス対策を支援へ～

株式会社デジタルガレージ(大証 JASDAQ 4819、本社:東京都渋谷区、代表取締役 グループ CEO:林 郁)の子会社である株式会社 CGM マーケティング(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:林 郁、以下:CGMM)は、Twitter アカウント運用支援ツール「Tweetmanager」に不正アクセス対策を目的とした新機能を追加し、本日より提供を開始しました。

Tweetmanager は、Twitter を活用したマーケティングの円滑な運営・管理と効果測定をサポートすることを目的に CGMM が開発し 2009 年から提供を始めた、官公庁や企業の Twitter 担当者を対象としたツールです。異なるパスワードによる 2 段階の認証を経なければ Twitter に投稿できない仕組みにすることなどにより、不正アクセスによるなりすましのリスクを抑えることで、安全に Twitter アカウントを運用したいという担当者のニーズに応えてきました。

その一方で、昨今 Twitter アカウントへの不正アクセスも発生しており、海外においてはニュースアカウントのハッキングによって偽のニュースが流され株価が急落するなど、実体経済への影響が出る事件も発生しております。日本ではネット選挙解禁により、各候補者や政党の Twitter アカウントがいつそう活用されるようになるに伴い、なりすましに対する懸念がこれまでに増して高まっております。

こうした状況を背景に、今回は Tweetmanager のセキュリティをさらに高めるための 2 つの機能を追加しました。第 1 に、Tweetmanager の利用環境の制限機能です。あらかじめ IP アドレスを指定することで、利用環境をオフィスなどに限定することが可能になりました。決められた場所でしか Twitter への投稿ができなくなるため、なりすましのリスクを大幅に抑えられます。第 2 に、不正な投稿があった際のアラート機能です。Tweetmanager で管理している Twitter のアカウントが万が一ハッキングされて、Tweetmanager を経由しない投稿があった場合に、これを瞬時に検知して警告メールを担当者に送信します。このため、不正な投稿による被害を最小限に食い止めることが可能になります。

なお CGMM は、セキュリティ対策に特化した「Tweetmanager for Security」の提供を準備しております。2 段階認証、利用環境の制限、警告メールといったセキュリティに関する機能や RSS 更新時の自動投稿機能は通常版と同じしつつ、トレンド分析やレポート、フォロワー推移といった効果測定機能などを省くことで、年額 95,000 円(消費税別)と価格の大幅な削減を実現しました。Tweetmanager for Security の発売は 2013 年 6 月 14 日を予定しています。